

# 強い工学研究院、 強い工学府を 目指して



工学研究院長 福富 洋志

本学は国立大学に提示された3つの重点配分の枠組みのうちから「主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学」を選択して、平成28年度からはじまった第三期中期目標・中期計画期間に臨んでいます。工学研究院・工学府は、期間中に多様な分野で実践的研究の世界拠点として、そして理工学分野で先導的な人材を生み出す組織としてさらに飛躍するために、戦略的目標を定めました。この中で、下記の4課題を第三期期間中にさらなる発展が期待できる、研究面での「工学研究院の強み・特色のある分野」として選定しました。

1. 極限エレクトロニクス・フォトンクスに関する研究
2. 持続可能社会を支える創・蓄・省エネルギーに関する研究
3. ものづくりライフィノベーションに関する研究
4. 社会基盤材料の長寿命化に関する研究

これらはいずれも活発な活動を展開してきた個人を組織化して工学研究院が支援し、さらに大きな成果をあげることを期待するもので、世界・全国的な教育研究を推進するものです。

教育面では、博士課程前期で「自ら課題を探求し、未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下し、新たな社会の創造に立ち向かえる技術者・研究者の育成」を、博士課程後期で「独創的な科学と技術を創造・研究・開発し、新たな学問と産業社会を主体的に切り開く創造性豊かな技術者・研究者の育成」を目指す教育を展開します。このため、平成29年度に3学科編成に整備した理工学部において理学から工学まで広い分野の基礎的学術を学んだ卒業生がさらに高度な学術を修得できるように、工学府を発展させる組織改編を計画しています。それと共に国際性を培う教育にも力を注ぎます。工学府の修了生はその大半がグローバル企業に就職しており、社会からの期待にこれまで以上に応えるため、国際共同研究、ダブルディグリープログラム、合同での博士課程前期・後期学生の研究発表シンポジウムなどの海外大学との協働や英語による講義、海外インターンシップ等をさらに積極的に推進します。これらにより工学研究院ならびに工学府の活動を充実し、同時に本学の基本理念である「実践性」、「先進性」、「開放性」、「国際性」を具現化して参ります。

## 工学研究院

所属教員数		2016年5月1日現在 ( )内は前年5月1日現在						
研究部門	教授	准教授	講師	助教	特別研究教員	研究教員	助手	客員*
機能の創生部門	27 (23)	21 (25)	3 (3)	5 (4)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	6 (6)
システムの創生部門	16 (17)	13 (13)	2 (4)	5 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
知的構造の創生部門	25 (27)	25 (25)	1 (0)	8 (5)	3 (4)	0 (0)	3 (3)	4 (3)
合計	68 (67)	59 (63)	6 (7)	18 (13)	11 (12)	0 (0)	4 (4)	17 (16)

※連携講座の客員教授・客員准教授

## 事務系職員

2016年5月1日現在 ( )内は前年5月1日現在  
 事務部及び各学科等に所属する事務職員は39(39)名、技術部に所属する技術職員は28(27)名です。